

李 佳蓉
リ カヨウ

■ 専門分野

- ・組織論：企業の社会的責任（CSR）、ビジネス倫理、ステークホルダー・マネジメント
- ・戦略論：非市場戦略、CSR コミュニケーション戦略、ステークホルダー戦略

■ 指導可能な研究テーマ

- ・企業とステークホルダー、国家・政府、地域社会との関係に関する研究
- ・企業の社会的責任（CSR）とステークホルダー・マネジメントに関する研究
- ・ステークホルダー・コミュニケーションを含む企業の非市場戦略に関する研究
- ・ハイブリッド組織におけるガバナンスの形成と組織内コミュニケーションに関する研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

2026年度着任のため、現時点では該当なし

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

研究課題の構築および問題意識の形成に関する文献

- ◆ Alvesson, M., & Sandberg, J. (2011). Generating research questions through problematization. *Academy of Management Review*, 36(2), 247-271.
- ◆ Alvesson, M., & Sandberg, J. (2013). Has management studies lost its way? Ideas for more imaginative and innovative research. *Journal of Management Studies*, 50(1), 128-152.
- ◆ Alvesson, M., & Kärreman, D. (2007). Constructing mystery: Empirical matters in theory development. *Academy of Management Review*, 32(4), 1265-1281.
- ◆ Adler, P. S., Forbes, L. C., & Willmott, H. (2007). Critical management studies. *Academy of Management Annals*, 1(1), 119-179.
- ◆ Fournier, V., & Grey, C. (2000). At the critical moment: Conditions and prospects for critical management studies. *Human Relations*, 53(1), 7-32.
- ◆ Sandberg, J., & Alvesson, M. (2011). Ways of constructing research questions: Gap-spotting or problematization? *Organization*, 18(1), 23-44.

論文の作成・執筆に関する基本文献

- ◆ Colquitt, J. A., & George, G. (2011). Publishing in AMJ—Part 1: topic choice. *Academy of Management Journal*, 54(3), 432-435.
- ◆ Bono, J. E., & McNamara, G. (2011). Publishing in AMJ—Part 2: Research design. *Academy of Management Journal*, 54(4), 657-660.
- ◆ Grant, A. M., & Pollock, T. G. (2011). Publishing in AMJ—Part 3: Setting the hook.

Academy of Management Journal, 54(5), 873-879.

- ◆ Sparrowe, R. T., & Mayer, K. J. (2011). Publishing in AMJ—Part 4: Grounding hypotheses. *Academy of Management Journal*, 54(6), 1098–1102.
- ◆ Zhang, Y., & Shaw, J. D. (2012). Publishing in AMJ—Part 5: Crafting the methods and results. *Academy of Management Journal*, 55(1), 8–12.
- ◆ Geletkanycz, M. A., & Tepper, B. J. (2012). Publishing in AMJ—Part 6: Discussing the implications. *Academy of Management Journal*, 55(2), 256–260.
- ◆ Bansal, P., & Corley, K. G. (2012). Publishing in AMJ—Part 7: What’s different about qualitative research? *Academy of Management Journal*, 55(3), 509–513.

実証研究の参考事例

- ◆ Alamgir, F., & Banerjee, S. B. (2019). Contested compliance regimes in global production networks: Insights from the Bangladesh garment industry. *Human Relations*, 72(2), 272-297.
- ◆ Claus, L., & Tracey, P. (2020). Making change from behind a mask: How organizations challenge guarded institutions by sparking grassroots activism. *Academy of Management Journal*, 63(4), 965-996.
- ◆ Chang, E. H., Milkman, K. L., Chugh, D., & Akinola, M. (2019). Diversity thresholds: How social norms, visibility, and scrutiny relate to group composition. *Academy of Management Journal*, 62(1), 144-171.
- ◆ Khan, F. R., Munir, K. A., & Willmott, H. (2007). A dark side of institutional entrepreneurship: Soccer balls, child labour and postcolonial impoverishment. *Organization Studies*, 28(7), 1055-1077.
- ◆ Venkatesh, V., Shaw, J. D., Sykes, T. A., Wamba, S. F., & Macharia, M. (2017). Networks, technology, and entrepreneurship: A field quasi-experiment among women in rural India. *Academy of Management Journal*, 60(5), 1709-1740.

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

学生の研究テーマに応じて、関連する科目を適宜選択することを推奨する。具体的な履修科目については、各学生の研究関心および研究テーマを踏まえ、指導教員と相談のうえ決定する。

■ 博士課程後期での研究指導実績

2026年度着任のため、現時点では該当なし

■ 研究指導の方針と学生への期待

研究指導においては、学生自身が現実の企業活動や社会現象のなかから問題を発見する

力を重視します。研究室のなかで抽象的に構想するだけでなく、既存の見方やステレオタイプを問い直し、企業、地域社会、行政機関、NPO、労働現場など、研究テーマに応じた現場や一次資料に積極的に向き合う姿勢を大切にします。

意義のある研究課題は、必ずしも最初から実行しやすい形で見えているとは限りません。そのため、難しいテーマであってもすぐに諦めるのではなく、フィールドへの接近、インタビュー、事例分析、文献・資料調査、公開データの活用など、多様な方法を組み合わせながら、実現可能な研究設計へと具体化していくことを期待します。

また、論文を読むこと、そして自ら論文を書くことを通じて、遠く離れた国や地域の研究者と対話し、既存の共通認識や偏見を問い直していく知的な面白さを感じてほしいと考えています。AIを含む各種ツールは、研究を進めるうえで有用な補助となり得ますが、研究課題の設定、資料の解釈、論理の構築については、学生自身が主体的に考え、判断することを重視します。

研究は単なる苦しい作業ではなく、思考、対話、探索、表現を重ねながら、身近な経験や社会の出来事の意味を捉え直していくプロセスでもあります。学生一人ひとりが、現象や経験に意味を見いだす *sensemaker* として、研究に向き合う姿勢を大切にしてほしいと考えています。

■ 指導にあたって重視する学生の姿勢

- ◆ **方法論に対する開かれた姿勢**：自らの研究の土台として、定性的または定量的アプローチのいずれかについて、独自の専門性や明確な立場を育てることを重視します。一方で、生成AIをはじめとするツールの普及により、異分野の手法やアプローチを学ぶ技術的ハードルは大きく低下しています。そのため、自らの専門外の手法に対しても偏見や拒絶を持つのではなく、AIを有用な補助として主体的に活用しながら、自身の問いに最も適したアプローチを柔軟に選択・統合できる複眼的な視野を期待します。
- ◆ **国際的な研究推進のための英語力**：グローバルな先行研究の潮流を的確に捉え、自らの知見を世界へ発信していくために、英語論文を読みこなし、発表と執筆に向き合える十分な意欲と基礎的な語学力を重視します。
- ◆ **失敗を恐れない積極的な対話**：「完璧なロジックが完成するまで発言しない」のではなく、未完成のアイデアであっても恐れずに言葉にし、議論を重ねるなかで研究をブラッシュアップしていくプロセスを大切にします。